

首都圏に住むみなさん！

日米政府の合意により、沖縄県の名護市・辺野古に新基地がつくられようとしています(図)。
六〇年余りも米軍基地に苦しめられている沖縄に、新たに米軍基地をつくることを許してはいけません。

「沿岸案」は米軍の軍事要塞化

日米両政府は、「辺野古沿岸案」(大浦湾からキャンプシュワブ南の沿岸部)を公表した。1966年に米軍が検討した計画にそっくりで、大浦湾の軍港化も心配だ。沖縄北部地域を軍事要塞にする計画だ。

「沿岸案」は自然破壊

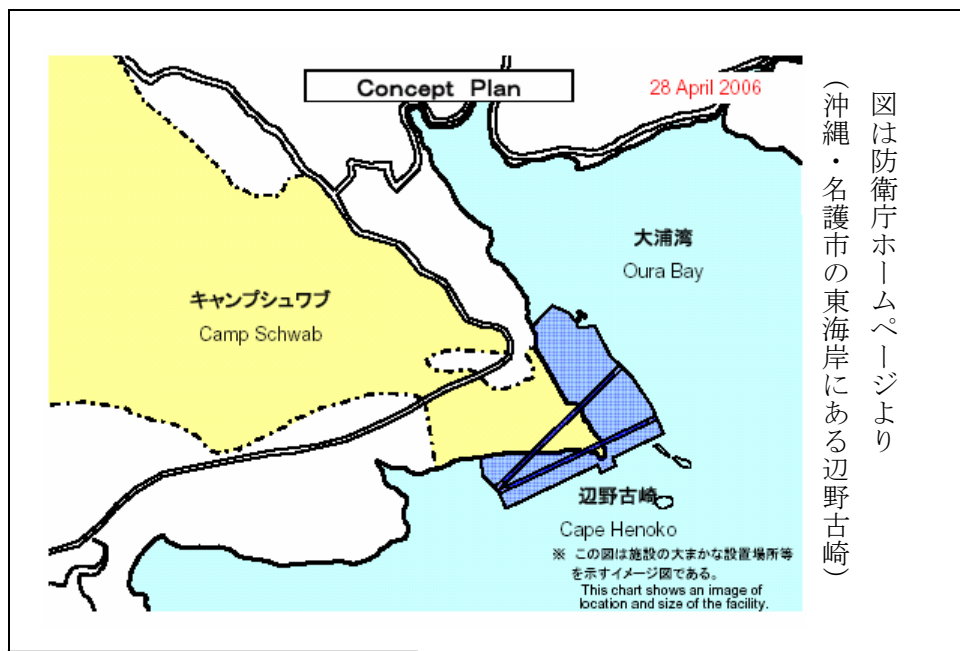
辺野古の海に隣接する大浦湾。ジュゴンやサンゴなど多様な生物の宝庫である大浦湾の大自然が破壊される。陸には遺跡もある。アメリカではジュゴン保護のための訴訟が起こされ、世界の環境保護団体、動物愛護団体も反対している。

県も市も地元 13 区も民も反対

地元の意見も聞かずに決められたこの案に、沖縄県民の8割以上が反対している。3月5日には沖縄県民総決起大会が開催された。

負担軽減はまやかし！

日本の米軍基地の実に75%が国土面積0.6%の沖縄に集中している。日本政府は沖縄の負担軽減を口にしなが、また新たな基地負担を沖縄に押しつけている。地対空誘導弾パトリオット・ミサイル(PAC3)を今年中に嘉手納基地に配備するために米兵600人、家族1500人が増えるという。



普天間基地は即時閉鎖を

「世界一危険な普天間」と言ったのは、米国のラムズフェルド国防長官。その普天間返還を発表しておきながら、すでに10年を経過した。2004年8月13日の普天間のヘリコプター落下事故を忘れてはならない。住民の安全を考えるならば、まずは普天間基地を閉鎖すべきだ。

米軍再編は基地強化

米軍基地は、近隣諸国を脅かし、遠くアフガンやイラクへの侵略戦争に使われている。「米軍再編」=「日米同盟 未来のための変革と再編」は、「対テロ」戦争という名の、アメリカによる全地球的な先制攻撃戦争に在日米軍基地を指令・情報・作戦・出撃中枢として再編し、かつ自衛隊を最前線の戦闘部隊として活用するためのもの。

思いやり予算はやめよう

年間6000億円といわれる思いやり予算が、米軍を日本に沖縄に招いている。

1兆円近くの米海兵隊員のグアム移転費用を、なぜ私たちの税金で支払わないといけないのか。

米軍に甘いこの「思いやり」が米軍の居座りを招いている。

日米地位協定を見直そう

全国で米兵の犯罪が頻発している。あまりに不平等な地位協定を見直すべきだ。無法な治外法権、基地汚染、環境破壊、際限なき対米譲歩を許してはいけない。

あなたもいっしょに

○辺野古のことを知ろう！ =>

下記URLや沖縄タイムズ・琉球新報の新聞やWEBを見てください。写真集「辺野古アクション」やビデオ「辺野古の闘いの記録」を是非見てください。

○いっしょに闘おう！ =>

毎月第1月曜日18時半に防衛庁前に来て下さい。抗議行動をします。

○日本政府に抗議しよう！ =>

政府にあなたの声を届けて下さい。

○マスメディアに訴えよう！ =>

メディアにあなたの声を届けて下さい。

辺野古への基地建設許さない 実行委員会

(31の市民団体)

<http://www.jca.apc.org/HHK/NoNewBase/s/NNBJ.html>

連絡先: 沖縄・一坪反戦地主会関東ブロック(090-3910-4140)、市民のひろば(03-5275-5989)

自衛隊基地にも反対

米軍基地を自衛隊と共用で使用したり、自衛隊に移管することも政府が目論んでいる。現に全国で日米の合同軍事演習が盛んに行なわれている。自衛隊への移管や共用使用も、沖縄の過重基地負担を定着させることになる。